

## パーキンソン病療養の手引きの改訂

高橋良輔<sup>1)</sup>、渡邊宏久<sup>2)</sup>、野村哲志<sup>3)</sup>、前田哲也<sup>4)</sup>、馬場康彦<sup>5)</sup>、下畑享良<sup>6)</sup>、齋木英資<sup>7)</sup>、  
栗崎玲一<sup>8)</sup>、澤本伸克<sup>9)</sup>、平野成樹<sup>10)</sup>、金子鋭<sup>11)</sup>、西川典子<sup>12)</sup>、高橋牧郎<sup>13)</sup>、下泰司<sup>14)</sup>、  
服部信孝<sup>14)</sup>、山本敏之<sup>15)</sup>、大江田知子<sup>16)</sup>、高橋一司<sup>17)</sup>、柏原健一<sup>18)</sup>、山門穂高<sup>1)</sup>、  
中島健二<sup>3)</sup>、野元正弘<sup>12)</sup>、長谷川一子<sup>19)</sup>  
京都大学神経内科<sup>1)</sup>、名古屋大学脳とこころの研究センター・神経内科<sup>2)</sup>、  
鳥取大学脳神経内科<sup>3)</sup>、秋田県立脳血管研究センター神経内科診療部<sup>4)</sup>、  
東海大学神経内科学<sup>5)</sup>、新潟大学脳研究所神経内科<sup>6)</sup>、北野病院神経内科<sup>7)</sup>、  
NHO 熊本南病院神経内科<sup>8)</sup>、京都大学人間健康科学<sup>9)</sup>、千葉大学神経内科<sup>10)</sup>、  
関西医科大学神経内科<sup>11)</sup>、愛媛大学薬物療法・神経内科学<sup>12)</sup>、大阪赤十字病院神経内科<sup>13)</sup>、  
順天堂大学脳神経内科<sup>14)</sup>、国立精神・神経医療研究センター病院神経内科<sup>15)</sup>、  
NHO 宇多野病院神経内科<sup>16)</sup>、埼玉医科大学神経内科<sup>17)</sup>、岡山旭東病院神経内科<sup>18)</sup>、  
NHO 相模原病院神経内科<sup>19)</sup>

### 研究要旨

「パーキンソン病と関連疾患（進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症）の療養の手引き」が、「神経変性疾患に関する調査研究班」（主任研究者 葛原茂樹）の事業として平成 17 年に発行され、現在まで広く活用されてきた。しかし、発行後約 10 年が経過し、この間に非運動症状が注目されて多くの知見が集積され、治療についても顕著な進歩があった。こうした背景から、本研究班の事業として改訂版を作成することとなった。神経変性班内外の中堅・若手の専門家を中心に協力、ご執筆をいただき、Q&A 形式の構成でイラスト・図を多用し、患者・介護者の立場に立った工夫された原稿をいただいた。現在、改訂版の手引きの完成に向け、用語や表現の全体の統一、イラストの追加などを進めている。改訂版第一版完成後は、「神経変性疾患領域における基盤的調査研究班」（中島班）や難病ドットコム（http://jpma-nanbyou.com/）のホームページへの掲載や患者会への周知をお願いし、ご批判をいただき、さらなる改訂に役立てることを検討したい。

### A. 研究目的

「パーキンソン病と関連疾患（進行性核上性麻痺・大脳皮質基底核変性症）の療養の手引き」は平成 17 年 3 月「神経変性疾患に関する調査研究班」（主任研究者 葛原茂樹）の事業として作成された。親しみやすい Q&A 形式で構成され、多くのイラストと大きな字による平易・簡潔な記載で、一般の方にも読みやすい工夫がされている。この

手引きは、「神経変性疾患領域における基盤的調査研究班」（中島班）のホームページ（<http://plaza.umin.ac.jp/~neuro2/index.html>）や難病ドットコム（<http://jpma-nanbyou.com/>）からダウンロードすることが可能となっている。現在まで、病気に関するわかりやすい手引き書（本文 75 ページ）として広く活用されてきたが、発行後約 10 年が経過した。この間に、病態理解

については、生活の質に大きな影響を与える因子として自律神経障害、睡眠障害、精神症状、認知機能障害等の非運動症状が注目されて多くの知見が集積された。また、治療についても、ドパミンアゴニストの選択肢が増え、手術療法も進歩した。こうした背景から、本研究班の事業として改訂版を作成することになった。

## B.研究方法

前回の療養の手引き作成以降の診療の進歩に対応し、改訂版の手引き「パーキンソン病：療養の手引き 良く知ろう、パーキンソン病とその治療」を作成する。改訂版には、非運動症状と、新しい治療選択肢についての記載を加えることとした。

形式は平成 17 年度版を踏襲して、Q&A 形式で構成し、イラスト・図を多用して、患者・介護者の立場に立ったわかりやすい記載を目指すこととした。

## C.研究結果

神経変性班内外の中堅・若手の専門家を中心にご協力、ご執筆をいただき、多くの患者さんやご家族に活用いただけるよう平易・簡潔に記載された原稿を、以下の内容でいただいた(敬称略)。

### 【目次】

1. 総論 [京大: 高橋 良輔]
2. 臨床症状  
運動症状 [京大: 高橋 良輔]  
非運動症状  
自律神経症状 [名大: 渡邊 宏久]  
睡眠障害 [鳥取大: 野村 哲志]  
精神症状/認知障害 [秋田脳: 前田 哲志]  
[福岡大: 馬場 康彦]  
疼痛/感覚障害 [新潟大: 下畑 享良]  
治療の運動合併症 [北野: 斎木 英資]  
合併する身体疾患 [熊本南: 栗崎 玲一]
3. 診断

- 診断基準/検査 [京大: 澤本 伸克]  
鑑別診断 [千葉大: 平野 成樹]  
4. 経過 [関西医大: 金子 鋭]  
5. 治療  
運動症状  
早期治療/選択薬 [愛媛大: 西川 典子]  
進行情治療 [大阪日赤: 高橋 牧郎]  
外科的治療 [順天堂: 下 泰司/服部信孝]  
リハビリテーション [国立精神神経セ: 山本 敏之]  
非運動症状  
自律神経症状 [名大: 渡邊 宏久]  
睡眠障害 [鳥取大: 野村 哲志]  
精神症状/認知障害 [秋田脳: 前田 哲志]  
[福岡大: 馬場 康彦]  
疼痛/感覚障害 [新潟大: 下畑 享良]  
6. 日常生活における注意  
運転/転倒予防など [宇多野: 大江田 知子]  
自律神経症状など [埼玉医大: 高橋 一司]  
7. 患者・家族への支援 [岡山旭東: 柏原 健一]  
8. 開発中の診断/治療法 [京大: 山門 穂高]

## D.考察

現在、改訂版の手引きの完成に向け、用語や表現の統一、イラストの追加などを進めている。用語は、「神経学用語集 改訂第 3 版」に基本的に従う。しかし、例えば'dopamine agonist'の和訳は、「神経学用語集」では'ドパミン作動薬'であるが、一般的には'ドパミンアゴニスト'が使われることが多く、非専門家向けの手引きであることを考慮して後者の選択も検討している。また、pathological gambling (病的賭博)、hypersexuality (性欲亢進)など「神経学用語集」に記載がない用語は、「パーキンソン病ガイドライン 2011」に従う方針とする。また、改訂版第一版の完成に向けた準備と並行して、神経内科診療チーム看護師からのフィードバックも受け、さらに親しみやすい手引きを目指している。

改訂版第一版完成後、広報については、「神経変性疾患領域における基盤的調査研究班」(中島班)や難病ドットコムのホームページへの掲載や、患者会への周知をお願いします。さらに、読者アンケートなども行って、用語の選択も含めたご批判をいただき、さらなる改訂に役立てることを検討したい。

## E. 結論

「パーキンソン病と関連疾患(進行性核上性麻痺・大脳皮質基底核変性症)の療養の手引き」が平成17年に発行され、現在まで広く活用されてきた。しかし、発行後約10年が経過したことから、本研究班の事業として改訂版を作成することとなった。神経変性班内外の中堅・若手の専門家を中心にご協力、ご執筆をいただき、前回の療養の手引き作成以降の診療の進歩に対応した改訂版の原稿をご準備いただいた。現在、完成に向け、用語や表現の統一、イラストの追加などを進めている。改訂版第一版完成後は、「神経変性疾患領域における基盤的調査研究班」(中島班)のホームページへの掲載や患者会への周知をお願いします、ご批判をいただき、さらなる改訂に役立てることを検討したい。

## F. 健康危険情報

該当なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

1. 生野正嗣、高橋良輔「パーキンソン病と類縁疾患」臨床と研究 92 巻 6 号 728 - 732、2015
2. 服部信孝、村田美穂、高橋良輔、武田篤、坪井義男「パーキンソン病の進歩ー病態解明そして新規治療はどこまで進んだかー」日本医師会雑誌 第 144 巻第 8 号、1561 - 1574、2015

3. 樽野陽亮、高橋良輔「パーキンソン病の治療」Medical Practice 第 33 巻 臨時増刊号「最新のガイドラインを生かした日常内科診療」2016 年 - その充実とレベルアップを目指して -」(印刷中)

## 2. 学会発表

該当なし

## H. 知的所有権の取得状況(予定を含む)

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし